

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 学校法人 先端教育機構 事業構想大学院大学

御名前 伊藤 貴志 様 (月刊事業構想 編集長)

織田 竜輔 様 (産官学連携本部 本部長)

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

【未来体験のショーケース】

- 大阪・関西万博は、「未来を体験する」ショーケースになると思います。
従来の万博において、基本、各展示やパビリオンは、アウトプットを提示する場でしたが、大阪・関西万博では、各展示がこれからの「未来」を考えるためのインプットになることを期待します。

【「答え」ではなく、「問」を提示】

- 具体的なモノに触れたり体験することは、人の想像力を刺激します。
未来には不確実性があり、未来を考えることは、とりとめもないところがあります。しかし、具体的なモノや体験があると、人は考えやすくなり、発想が広がりやすくなります。
万博のコンテンツが、いわば「答え」を提示するのではなく、「問い」を提示する。
固定的な未来を提示するよりも、多様な未来があり得ること、可能性には広がりがあることを示す場として、万博が機能すれば良いと考えています。

【「ガイド」ではなく「ファシリテーター」として案内】

- 上記のような試みは、来場者のリテラシーや能動性が求められますが、会場のスタッフが単なるガイド役でなくファシリテーターの役割を果たし、会期中、毎日のようにアイデアソンやハッカソンを開催することはできると思います。用意した答えを見せるガイドではなく、新たなものにふれ、背景にあるストーリーを知り、多様な人物に出会い、新たな気付きや発想を得られるファシリテーターを配置すると良いともいます。

【万博を起点とした未来への挑戦】

- 万博を起点に生まれたアイデアをそこで終わらせず、継続的な取り組みにつなげるためのワーキングスペースのような場所を、大阪・関西につくことも考えられると思います。
- 成果物を展示するだけでなく、未来への挑戦が始まり、未来を実現できる場にする。それは希望へとつながり、一連の取り組みを通じた「人づくり」が、後世に残すべきレガシーになると思います。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

【プロセス設計自体を見せる】

- 万博のテーマ「いのち輝く」に即したヘルスケアをはじめ、SDGs は重要なコンテンツになると思います。
- ヘルスケアや SDGs に関連するテクノロジーや個別テーマは無数に考えられますから、コンテンツを決め打ちしてしまうのではなく、企画段階での参加者の多様性の確保や不確実性の許容、具体化させるためのプロセス設計など、アイデアを採り入れて実現するための仕組みづくりが重要になると思います。

極端に言えば、日本人 1 億 2000 万人の声を聞くためにテクノロジーを活用すれば、そうしたプロセス設計自体が世界に誇れるものになると思います。

【SDGs 達成への統合的アプローチを身近に感じるコンテンツづくり ～バーチャル子孫～】

- SDGs は、統合的アプローチが重要ですが、概念を説明しても抽象的でその理解と行動変容が難しいです。そこで、来場者を対象者別に想定をし、興味をもちそうなテーマを入り口にして、様々なテーマに結びついていること、ひとりひとりの身近な行動が未来に結びついていることをわかりやすく表現するアイデアを、具体化、コンテンツ化していくことが必要だと思います。たとえば、自身のバーチャル子孫（アバター）を登場させ、今の行動がどのように未来に結びつくか、複雑な社会にどのような相互作用、影響をもたらすのか（良い影響も悪い影響も）表現させてはどうでしょうか。

【万博の全国化 ～ランナーズ・ヴィレッジ構想～】

- 日本の各地域の文化、伝統、自然、生活等、地域固有の資源を見せると良いと思います。万博会場だけでなく、日本各地・津々浦々に訪れたいようなコンテンツを用意し、訪れてもらうための導線をつくれれば、全国各地を巻き込んだ万博になると思います。いわば、万博の全国化です。万博会場と各地域の双方の対話があるコンテンツも良いかと思います。参考までに、事業構想大学院大学が地域と共に取り組む「ランナーズ・ヴィレッジ構想」は、ランナーを対象に、全国各地の農山漁村の道にランニングコースを設置、農泊なども組み合わせ、各地への誘客や交流を行うプロジェクトを実施しています。地方の既存の資源を活用し、ハード整備には費用をかけないので、予算としても低額で済むと考えられます。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

- 大阪・関西だけでなく、全国的な広がりを持たせるためのサテライト会場の設置。
例えば、地方のサテライト会場との遠隔通信（視覚・音声だけでなく、触覚・匂いなどの五感情報のインターネット）を用いた体験の提供など、地方創生への展開も考えられます。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 万博の盛り上がりにも貢献できるよう、事業構想大学院大学や「月刊事業構想」としても、いろいろと取り組んでまいりたいと思います。